危険への

鹿児島労働

約900人 労働災

鹿児島労働局主唱、建災防県支部、日本砕石協会県支部ら8団体の共催による鹿児島労働安全衛生大会は2日、鹿児島市の市民文化ホールで発注機関や事業所など約900人が参加して開かれ、体験発表や特別講演などで安全に関する認識を新たにするとともに、労働災害絶滅等を誓った。

職場の危険ゼロ等を誓った大会
＝鹿児島市の市民文化ホールで

鹿児島南北幹線

東西・南北幹線促進期成会総会

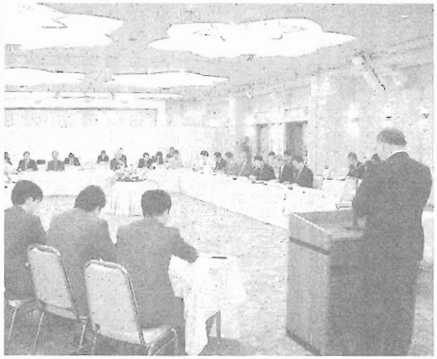
甲突川以北の3.7キロ検討

東西幹線は詳細設計等

鹿児島東西・南北幹線道路建設促進期成会（会長・赤崎義則鹿児島市長）は2日、鹿児島市のパレスイン鹿児島で13年度総会を開き、両幹線道路の早期整備に向けた決議を承認したほか、県当局は南北幹線について甲突川以北の3・7㌔から検討することを明らかにした。

冒頭、赤崎会長が「東西幹線が着実に進行しているのに対し、南北幹線は明らかに遅れている。南北幹線も谷山地区との渋滞緩和に欠かせない重要な道路。東西・南北が連結されてこそ意味あるもの。更なるお力添えを頂きたい」と挨拶。

経過報告に引き続き、赤崎会長を議長に協議に入り、森勝彦鹿児島国道工事事務所長が東西幹線について「鹿児島インターから高麗通線付近までの整備区間の詳細設計を実施し、田上地区で一部用地買収に着手する。整備に向けての円滑な推進、道路特定財源の堅持に努めたい」と挨拶。木場健三県道路建設課高速道対策室長が南北幹線について「東西幹線との連結地点となる甲突川以北の約3・7㌔について、臨港道路の活用も含めて整備手法などの検討を関係機関と協議していく。調査区間への早期格上げに向けて引き続き要望していきたい」と現状及び展望について語った。また、木場室長は、谷山地区の慢性的な渋滞解消を図るために「南警察署前交差点の谷山方面から市内へ向かう車線に左折車線を設ける」との方針も明らかにした。



出席者からの意見や質問を交わした後、今後の活動目標や方針を決定。

最後に、井上恒治鹿児島青年会議所理事長（井上総合緑化建設㈱取締役）が「東西幹線道路の早期着手及び調査区間の整備区間への格上げ。南北幹線道路の調査区間へ格上げを要望する」という決議案を読み上げ、全会一致の拍手で承認したほか、道路特定財源の確保を関係機関に要望する特別決議も承認した。

両幹線道路の整備促進についての要望を決議した総会＝鹿児島市のパレスイン鹿児島で

鹿児島市

管工事協組青年部会総会

経営基盤の強化柱に

尾上部会長を再選 福祉、奉仕活動も掲げる

鹿児島市管工事協同組合青年部会（尾上秀和部会長）は6月29日、鹿児島市のチサンホテル鹿児島で13年度第10期通常総会を開き、経営基盤の強化などを柱とする新年度事業計画等を決めたほか、任期満了に伴う役員改選では尾上部会長を再選した。

総会では、尾上部会長が「青年部も10年を迎えられたことは会員各社の協力の賜物。12年度はボランティア活動等への積極的な参加等で各種表彰を頂きました。13年度も会員が一致団結して奉仕活動や各種活動等を積極的に進めてほしい」と挨拶した。

続いて、山之内成博副部会長を議長に選出して5議案を審議、12年度事業・収支決算・監査意見書報告、13年度事業計画・収支予算案などを原案通り可決承認した。また、任期満了に伴う役員改選では尾上部会長を再選した。

新年度事業計画は、経営基盤の強化と技術の向上で経営合理化講習や交流会参加、技術技能講習会の開催などを盛り込んだほか、福祉促進で会員基礎体力づくりを兼ねた福祉活動、奉仕活動で上下水道促進デーへの参加や福祉への奉仕活動などを掲げている。

引き続き会場を移して開かれた祝賀会では、尾上部会長が挨拶した後、来賓を代表して横山幸男県中小企業団体中央会青年部会長が「厳しい時代の流れないように一人ひとりがスクラムを組み未来を変えてほしい」と、また、管工事業協会長が「年11月にスタート部も各種事業に積極的に組み多くの実績を上げた。業界も電子入札

創立10周年の祝賀会
＝鹿児

アーク

日本溶接協会県支部

下之薗さんが初優

半自動は岩切さんが

5月4日に行われた日本溶接協会県支部（相良達之支部長）主催の13年度溶接技術競技大会の結果が発表された。アーク溶接の部は下之薗和也さん（三洋工機㈱）、半自動溶接の部は岩切卓也さん（㈱相良製作所）がそれぞれ初優勝、団体の部は㈱相良製作所が優勝した。

同競技会は、アーク溶接の部に12人、半自動溶接の部に14人、団体の部に8チームが参加。優勝した下之薗さんは800点満点中760点（金属溶接協会県支部長賞）、岩切さんは同764点（均643・6点）。

下之薗さんと岩切さんは10月27～28日に横浜で開かれる全国大会へ出る。また、アーク溶接で2位までの人が、半自動溶接の部で2位までの人が9月2日に宮崎市で開かれる九州大会にそれぞれ県代表として出場する。

海川紀雄日本溶接協会支部事務局長は「ルールが向上している。賞者は、県の代表

ポジションは